

かずさの博物誌

セグロセキレイ

～涼しげな姿～

文・写真／成田篤彦

2015.4.20

七年前の冬、公園の石畳みで奇妙な小鳥を見た。

頭、顔、腹、くちばし、脚が白。背と尾やつばさの一部が灰色。眼は黒い。

飼い鳥が逃げたのか？

だが、こんなそれを見たことがない。野生種の不完全なアルビノ（白子）だと思った。

だとすると姿や大きさから、ハクセキレイか？

野鳥観察のベテランの方に写真を見せた。

すると、「セグロセキレイだと思う。鳴き声でハクセキレイかセグロセキレイかを確かめて」と教えてくれた。

鳴き声は「ジュツ、ジュツ」と聞こえ、ハクセキレイと比較して、濁った声であった。

やはり、セグロセキレイだ。

アルビノはどんな生物にもいる



▶セグロセキレイ 不完全なアルビノ（白子）
||二〇〇八年二月十五日 木更津市（筆者撮影）

▶セグロセキレイ 堰でえさを探す
||二〇一四年十月二十四日 木更津市



©成田篤彦

が珍しい。

さて、セグロセキレイは秋～冬には河川下流の水辺や平地の水はけの悪い田で毎年見る。だが、一～二羽である。

似た種のハクセキレイと比べると非常に少ない。

ハクセキレイは市街地の建物のすき間などでヒナを育てており、一年中見られるが、セグロセキレイは、春になると姿を消してしまう。

彼らは平地ではえさが少なく子育てができないので、繁殖期の春にな

▶ハクセキレイ 歩道並木でさえずる
||二〇一一年七月二日 木更津市



©成田篤彦

るとえさの豊富な丘陵地などの上流に戻って巣作りをするのだろうと考えていた。

五年前の春、丘陵地の湿田を訪ねた。タンポポやオオイヌノフグリが畦道に咲いていた。

二羽のセグロセキレイが一枚の湿田の切り株の間を歩きながら、ミミズのようなものを捕えていた。陽をあびて、黒と白の色彩がとても鮮やかだ。繁殖期の羽色か？と思った。初夏にもこの場所にいた。

「この近くで子育てをしているのでは？」と思ったが、その根拠が見つからなかった。

セグロセキレイが初夏の河原でえさを捕える姿は涼しげだ。

その上、彼らは日本列島の固有種である。来日する、外国の野鳥愛好家はぜひ見たいと願う小鳥だ。

今年を上総での巣作りの確かな証拠をつかみたいと思っている。

memo

セグロセキレイ

ススメ目セキレイ科

全長十八～二十センチ。日本列島の固有種。主に、河原に生息し、水生昆虫を食べる。

巣は川岸の植物や岩の下、崖地などのものかげに枯れ草や細い根で椀形の巣をつくる。建物の屋根の隙間にもつくる。産卵期は三～七月

▶セグロセキレイ 湿田で餌を捕る。眼から下のほほが黒い||二〇一〇年三月五日 木更津市（筆者撮影）

